



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)三幸学園札幌校C棟	階数	6
建設地	札幌市中央区大通西19丁目1番30, 1番31	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	500 人
建物用途	学校	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
竣工年	2023年7月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	435 m ²	評価の実施日	2022年1月15日
建築面積	335 m ²	作成者	
延床面積	1,793 m ²	確認日	2022年1月15日
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆ **B-**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 79%

③上記+②以外のオンサイト手法 79%

④上記+オフサイト手法 79%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価
建物全体の[BEI][BEIm]= **0.78**

2-5 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 3.0**

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.8

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 2.9**

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.7

3 設計上の配慮事項

総合 地域の環境になじむ建築物として、外観及び高さ等を設計した。	A 省エネルギー 外壁は外断熱システムとした。
B 省資源等 建築材料等は、出来る限り再生可能なものとした。	C 緑化 建物の周りに植栽するよう計画した。
	D 雪処理 敷地の緑地以外は、出来る限りロードヒーティングを設置した。

4 ほかの認証・評価制度の利用

(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	あり	BELS認証	なし	LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4) (仮称)三幸学園札幌校C棟		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)				
スコアシート 実施設計段階		欄に数値またはコメントを記入				
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	全体
		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境				0.40	-	3.1
1 音環境				3.1	0.15	3.1
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0
1.2 遮音				3.3	0.40	3.0
1 開口部遮音性能			ペアガラス仕様とした。	3.0	0.30	5.0
2 界壁遮音性能			千鳥スタッド工法とした。	4.0	0.30	3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20	3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	3.0
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0
2 温熱環境				3.0	0.35	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0
1 室温				3.0	0.60	3.0
2 外皮性能	省エネ		ペアガラス仕様とした。	3.0	0.40	5.0
3 ゾーン別制御性				3.0	-	3.0
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0
3 光・視環境				3.0	0.25	3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.30	3.0
1 昼光率				3.0	0.60	3.0
2 方位別開口				3.0	-	3.0
3 昼光利用設備	省エネ		居室には出来る限り開口部を設けた。	3.0	0.40	5.0
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0
1 昼光制御	省エネ			3.0	1.00	3.0
2 映り込み対策				3.0	-	3.0
3.3 照度				3.0	0.15	3.0
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0
4 空気質環境				3.7	0.25	3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0
1 化学汚染物質			指定化学物質を使用しない。	4.0	1.00	3.0
4.2 換気				3.0	0.30	3.0
1 換気量				3.0	0.33	3.0
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0
3 取り入れ外気への配慮			空調外気は熱変換仕様とした。	3.0	0.33	5.0
4.3 運用管理				4.0	0.20	4.0
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	3.0
2 喫煙の制御			敷地内全面禁煙とした。	5.0	0.50	5.0

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.0
1 機能性			3.4	0.40		-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40		-	
1	広さ・収納性	動線を機能的な計画とした。		-	5.0	-	
2	高度情報通信設備対応			-	3.0	-	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30		-	
1	広さ感・景観 (天井高)		1.0	0.50	3.0	-	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画	和の雰囲気を考え、和む内装で計画した。	5.0	0.50		-	
1.3 維持管理			4.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計	維持管理を考えピット等を計画した。	5.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	維持管理を考え情報設備を集中	4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.4	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源 10年	4.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源 10年	4.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源 10年	4.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			2.2	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性				2.7	0.30	-	-	2.7
3.1 空間のゆとり				2.4	0.30	-	-	
1 階高のゆとり				2.0	0.60	1.0	-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性				2.8	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性				2.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		緑化		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		雪処理		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネ		3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		省エネ	[BEI][BEIm] = 0.78 -	3.2	0.50	-	-	3.2
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		省エネ		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング		省エネ		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		省エネ		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水機器の設置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.60	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減		省資源		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		省資源	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		省資源		3.0	0.20	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を使用しない	5.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		2.0	0.50	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	2.7
1 地球温暖化への配慮	省資源	温暖化の原因となる運用エネルギー削減の取組み	3.8	0.33	-	3.8
2 地域環境への配慮			1.9	0.33	-	1.9
2.1 大気汚染防止	省資源		1.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 緑化 景観		2.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制			1.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 電処理	分別回収用ゴミ箱を設置	4.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	
2 振動			3.0	0.33	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40	-	
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	0.9	BEEランク	B ⁻
建物名称	(仮称)三幸学園札幌校C棟				
建物用途	学校				
延床面積	1,793.0 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー		
	省資源等		
	緑化		
	雪処理		

★1=スコア(最低点~最高点)20%以下
 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下
 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下
 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下
 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上

3. 重点項目のCASBEEスコア	
A 省エネルギー (最高点 23.5 最低点 6.6)	合計 14.5点 / 23.5点
Q1 温熱環境	スコア 0.8 / 1.4 LR1 建物外皮の熱負荷抑制
Q1 光・視環境	スコア 1.3 / 2.1 LR1 自然エネルギー利用
	LR1 設備システムの高効率化
	LR1 効率的運用
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)	合計 12.7点 / 23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.7 / 1.1 LR2 非再生性資源の使用量削減
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 / 2.3 LR2 汚染物質含有材料の使用回避
	LR3 地球温暖化への配慮
	LR3 地域環境への配慮
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)	合計 8.2点 / 15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 2.7 / 4.5 LR3 地域環境への配慮
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 3.6 / 6.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 / 2.3
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)	合計 1.0点 / 3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.0 / 1.0 LR3 地域環境への配慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数